

## 1 訪問日程及び訪問先

平成24年10月15日(月)～19日(金)  
ロシア連邦 ハバロフスク市、ウラジオストク市  
※ 詳細は「4 日程表」のとおり

## 2 訪問団メンバー

団 長 藤井 省三 議員  
副団長 長谷川 稔 議員  
秘書長 興治 英夫 議員  
団 員 浜田 妙子 議員  
" 福田 俊史 議員  
<随行> 議会事務局 調査課 課長 補佐 浜田 定則  
主 事 西村 英士  
文化観光局 交流推進課 国際交流員 リー・ヴァチェスラフ (ロシア)

## 3 所感及び県政に対する提言

今回の県議会によるロシア極東地域訪問団は、ロシア極東地域との交流促進に加え、本年9月にロシア・ウラジオストクで初めて開催されたアジア太平洋経済協力会議(APEC)によるロシア極東地域の現地情勢の把握などを目的に、平成21年以来、3年ぶりにロシア極東地域の訪問を行った。

ロシア・ウラジオストクは、旧ソ連時代、極東最大の軍港として、長年外国人の訪問を拒んできた都市であるが、今回のAPEC開催に合わせて、約6,600億ルーブル(約2兆円)の国費が投じられてインフラ整備が進められており、ロシアにおける極東開発の拠点としての期待の大きさをうかがうことができた。

今回の訪問で一番印象深かったことは、ロシア極東地域における「鳥取」の知名度の高さであり、伊藤在ウラジオストク日本総領事によれば、「沿海地方で鳥取は東京に次ぐ知名度であり、既に鳥取ブランドが確立されている」とのことである。これは3年前に就航した環日本海定期貨客船(DBSクルーズフェリー)や、本県で積極的に行われている経済交流の取り組みなどが成果を上げつつある証左と感じた。ロシア極東地域と日本をつなぐ交通路は、成田空港との空路と、本県境港と結ぶDBSクルーズフェリーの海路の2つのルートしかなく、DBSクルーズフェリーの重要性を再認識するとともに、本県からの直行便の就航というメリットを更に積極的に活用すべき必要性を感じた。

まず、経済交流の所感について具体的に述べたい。

ロシア極東地域は、農産物、生活用品の輸入大国であり、ロシア国内や近隣国にとどまらず、世界中からあらゆるものが輸入され、遠くは南米地域からも輸入されている。輸送コストを考えれば、隣国である日本は非常に有利であり、加えて、本県は海路の直行便を持つ優位性から、更なる輸出拡大の可能性を感じた。本県からも、梨、スイカ、メロンなどの輸出が近年定期的に行われているが、いずれも最高級品であり、品質の高さは申し分ない一方、価格は非常に高く、購入層が富

裕層の一部に限定されることから、更なる商談の加速には繋がりにくい印象を受けた。

ロシア極東地域は、ロシア国内でも特に所得が低く、首都モスクワの半分程度の3万ルーブル（7万円程度）程度である。市内スーパーマーケットでは日本では規格外となるような品質のものも多く見受けられ、ロシア人は日本人のように形や色にこだわらないとのことなので、最高級品に加え、等級の劣るものや規格外のものを輸出対象に加えてみるなど、輸出品の多様性についても検討すべきである。試験的な輸出の取組から脱却する上でも、この取組は非常に重要だと感じられた。

また、日本とロシアのビジネススタイルの違いから、中国や韓国に遅れをとっていることも問題であると感じた。ロシア人はすぐに目に見える形の成果を求める傾向があり、中国や韓国の企業は、責任者による直接交渉により即断即決型で契約を行うとともに、後に問題が出てくればその都度修正していくやり方であるのに対し、日本の企業は、様々な問題を事前に解決しようと事前に十分に検討・調整し、契約締結までに相当の時間を要するため、日本の企業が交渉を進めている間に中国や韓国の企業に先を越されているケースが多いようである。日本企業の更なるスピード感が必要であるとともに、ロシアビジネスの交渉術や成功に向けた秘訣などについて理解を深める研修の開催などの取り組みも必要であると感じた。

今回訪れたウラジオストクの商社セイジョーフアーイースト社は、DBSクルーズフェリーを使つての日本との取引拡大についても意欲を示しており、現在、鳥取県の商品の取り扱いはないとのことであったが、ロシアの商社を鳥取県に招待するなど、県内のパートナーとのマッチングを支援することで、鳥取県からの商品の輸出についても可能性を感じる事ができた。県産品の輸出に向けた取組を加速させるとともに、そのための隘路があるなら、県が率先して隘路の解消に乗り出すべきである。加えて、DBSクルーズフェリーにおける境港からの取扱貨物の確保に向けて、鳥取県内はもとより中国地方及び関西地方からの輸出品を模索するなど、広域的な経済連携についても積極的に推進していくべきである。

次に、観光面について述べたい。

ロシア極東地域は、日本から空路で約2時間と非常に近く、ヨーロッパの雰囲気を感じさせる町並みは、鳥取から一番近い西欧の玄関口であり、観光対象として大変魅力的に感じられた。特にAPEC開催に伴い、観光インフラの整備が進みつつあり、今後、高級ホテルのオープンも予定されるなど、更なる観光の潜在性を感じさせた。日本におけるロシアのイメージは必ずしも良いものではないが、ロシア極東地域における親日性は極めて高いものがあり、互いの認知度を向上させる必要性を感じるとともに、本県にとって交流しやすい地域であることを再認識した。ビザなし観光の期間を上手に活用するなどして、日本からウラジオストク等への旅客を増やすことも必要であり、日本の旅行会社に働きかけるなど、県として旅客支援も検討すべきで、県民の気軽な海外旅行先として、ロシア極東地域が広まるよう期待したい。

また、ロシアからの観光客の誘致、旅行商品の開発にも取り組むべきであり、DBSクルーズフェリーの最も廉価なチケットはロシアでは販売されていないとのことであり、東海～境港間の廉価なチケットを韓国の旅行会社が買い占めているのであれば、ロシア人にも販売できるような対策を考えるべきである。

次に、ロシア極東地域が誇る豊富な地下資源を活用したエネルギー対策について述べたい。

ロシアは、石油、天然ガスの輸出国であるが、シェールガスの出現により、これまで欧州中心であった輸出形態が、東アジアへとシフトせざるを得なくなっている状況がある。既にサハリン、ハバロフスク、ウラジオストクを結ぶ天然ガスパイプラインは完成しており、ウラジオストク近郊に液化天然ガスを作るための工場を建設しようとしている。また、ナホトカには石油ターミナルが建設されている。

ロシアの今後の発展のためには、ロシア極東を拠点としたアジア地域への燃料資源の売り込みが不可欠であり、これらの動きを捉えるとともに、日本における原子力発電からの脱却を鑑みると、鳥取県に液化天然ガスの輸入基地を建設し、あわせて天然ガスの火力発電所の立地についても検討してみてもどうかと考える。

今回の訪問を通じて、APEC開催によるロシア極東地域、特にウラジオストクの更なる発展の可能性を強く感じるとともに、確実に現地に根付きつつある鳥取ブランドを確認することができた。DBSクルーズフェリーの重要性を再認識するとともに、これまでの取組で根付かせたブランドイメージを最大限に活用した商取引の加速に向けたビジネスマッチングに注力することで、更なるビジネスチャンスの拡大が期待される場所である。今回のロシア極東地域訪問は、経済、観光分野での可能性を探ることができたとともに、今後の本県とロシア極東地域との交流のあり方について再考することができた大変有意義なものであった。



APEC開催に合わせて建設された金角湾横断橋、右奥がルースキー島

#### 4 日程表

月日	日 程		移 動	宿 泊
10月 15日 (月)	8:40 9:05 15:30	鳥取空港→羽田空港 米子空港→羽田空港 成田空港→ハバロフスク空港	ANA294 ANA814 ウラジオストク 航空S7568	ハバロフスク泊
16日 (火)	10:15 11:00 13:30 14:45 17:15 18:00 21:00	・日本人抑留者慰霊碑献花 ・市内中央市場視察 ・極東国立美術館視察 ・NKシティ（スーパーマーケット）視察 ・ハバロフスク日本センター表敬 ・在ハバロフスク日本国総領事館表敬・夕食会 シベリア鉄道によりウラジオストクへ移動	借上バス     シベリア鉄道	車中泊
17日 (水)	8:00 9:30 10:30 14:00 15:20 18:00	ウラジオストク到着（日本との時差+2時間） ・市内視察 ・鳥取県ウラジオストクビジネスサポート センター視察→30分繰上げ ・沿海地方議会表敬 ・ルースキー島（連邦大学）視察 ・在ウラジオストク日本国総領事館表敬・夕食会	借上バス	ウラジオストク泊
18日 (木)	9:45 10:45 15:00 16:30	・アルセーニエフ博物館視察 ・市内視察 ・セイジョーフアーイースト（商社）視察 →30分遅れ ・VL-MART社（スーパーマーケット） 視察→30分の遅れ	借上バス	ウラジオストク泊
19日 (金)	12:10 14:25 18:05 19:40	・日本人抑留者慰霊碑献花 ウラジオストク空港→成田空港（14:30着） 羽田空港→米子空港 羽田空港→鳥取空港	借上バス ウラジオストク 航空XF4664 ANA817 ANA299	

## 5 訪問先の概要

【平成24年10月16日（火）】

### (1-1) 日本人抑留者慰霊碑献花（ハバロフスク）

藤井団長をはじめ、全員で献花を行った。現在は周辺に家も建ち、道路も整備されているが、抑留時には凍てつく原野での暮らしが想像され、胸が痛んだ。二度とこのような悲惨なことが起きないように、平和外交を祈り、手を合わせた。



献花する藤井団長ほか



慰霊碑

### (1-2) 市内中央市場（ハバロフスク）

品揃えも豊富であり、世界各国から商品が入っていると実感した。日本の調味料やインスタント食品も多く売られていたが、日本の価格の3倍程度の値段が付けられており、一般生活者の月給が6~10万円では、日本製品は高く、一般向けには難しいと判断した。



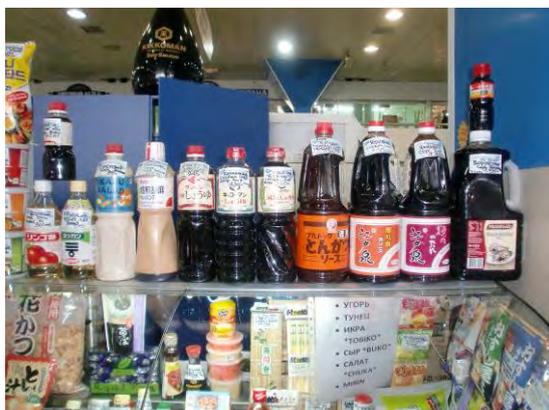
中央市場外観



場内案内看板



商品を見る団員



売られていた日本製品

### (1-3) 極東国立美術館 (ハバロフスク)

1931年開館の歴史ある美術館であり、主に西欧芸術、ロシア芸術、少数民族に関する展示が多くなされていた。鳥取の特別展示も開催されたと聞き、交流があることが嬉しく、今後も積極的に取り組み、互いの人的・文化的交流が高まることを期待した。



美術館の外観



館内の土産物売り場

### (1-4) NKシティ (ハバロフスク)

市内にある近代的な高層階のスーパーマーケットであり、店の作りも品揃えも日本とそう変わりなく、経済が安定していることがうかがえた。日本製品は多くはなかったが、洗剤や紙おむつ、化粧品などの日用品に加え、青森産と思われる「いかりりんご」が陳列されていた。「いかりりんご」は、他とは異なり一つ一つが傷防止のクッション材で包装されており、品質の高さがうかがわれたが、値段は他に比べ高価であった。また、化粧品では、ニベアの専用コーナーが設けられるなどしていたが、ロシア人は日本製品を好むと聞いていた割には総じて少なく、日本製品の更なる進出は今後の課題と感じられた。



NKシティの外観



商品を見る団員



売られていた青森産のリンゴ



ニベアの専用コーナー

### (1-5) ハバロフスク日本センター (ハバロフスク)

〔対応者〕 山本博志所長

山本所長から、センターが取り組むビジネス支援の取り組みやハバロフスクの情勢などの話を聞いた。主な説明内容は以下のとおり。

#### 【主な説明内容】

- ・ 日本センターは、北方領土の日本への返還、日ロ平和条約の締結を目標に、ロシアにビジネス支援をしている。活動を始めて17年目となる。
- ・ ロシア、その中でも特に極東地方は食料品の輸入大国であり、ハバロフスクのスーパーマーケットの輸入野菜は20数か国から65種類あった。

＜ロシアの食料品輸入（2011年）（単位：百万ドル）＞

総輸入額	39,228	内日本	53
かんきつ類	1,577		0.12
リンゴ	92万トン		108トン

- ・ 日本からの輸入は極端に少なく、拡大の可能性はある。
- ・ 鳥取県からの農産物は、スイカ、ナシなど品質の高い高価なものばかりだが、購入できる層は限られている。ハバロフスクの労働者の賃金はモスクワの2分の1であり、所得は低い。さらに売り上げを伸ばそうと思えば、品質は悪くとも価格の安いものが必要である。リンゴとナシ、イチゴがほしいと思っているとのことであり、本県からの農産品の輸出の参考にしたい。
- ・ 農業の技術支援も必要である。ロシア極東の農業生産量は少なく、野菜の大半は中国からの輸入である。天然ガスパイプライン建設により可能性が出てきた、温室栽培プロジェクトを提案している。その他の農業技術支援も必要である。畜産、酪農、大豆・そば等の栽培など、北海道が現地生産も含めて、検討を進めている。
- ・ その他注目すべき資源としては、水産資源（イカ、ナマコ、昆布、わかめ、シジミ、赤貝など）があり、これらを活用した食品加工所をロシアで展開するのも一考すべきと感じた。また、群を抜く豊富な地下資源と日本の国土の24倍の森林資源、世界の淡水の半分近くの水資源がある。
- ・ 地球温暖化の影響で米作が可能になるなど、農業の最適地になる可能性もある。
- ・ 21世紀の主役が中国、インドだとすれば22世紀はロシアが主役になる。極東部はロシアの捨て子だったが、今こそチャンス。中国、韓国はロシア極東を重視している。日本も環

日本海経済圏の構築に積極的に乗り出すべき、との示唆を受けた。

- ・ ロシア人に対する日本人の理解が進んでいない。
- ・ 総理府（内閣府）の外交調査によると、各国に対する日本人の好感度は、アメリカ 82%、韓国 62.2%、中国 26.3%、ロシア 13.4%で、ロシアが最も低い。ロシア人は日本に対する評価が高く親日的な人が多い。今後の交流を深めていくためにも、ロシア人の看護師を日本に迎えるなど、身近にロシア人、ロシア文化を感じることができるような取り組みをしてはどうか。
- ・ 日本のプレゼンスをあげているものとして、自動車、家電など日本の高品質評価がある。柔道、空手、合気道などの武道への関心の高さについては、プーチン大統領も柔道家で、山下泰弘氏を招いたりしている。
- ・ 生け花、茶道、着物からアニメ、コスプレまで、日本文化への関心が高い。ロシア人の中では、日本を否定する材料がなく、ロシア極東では、北方領土問題はほとんどのロシア人が意識していない。
- ・ ハバロフスク地方の特色としては、ロシアの中で居住環境一番の都市であるが、近郊での生活物資の生産が少なく、モスクワからの輸送コストもかかり、物価はモスクワ以上である。伝統的な基幹産業は、造船、航空機製造、鉄鋼などで、輸送のハブ機能の確立を目指しているが、外国からの投資は少ない。発展プロジェクトはインフラの整備が多いが、民間による投資の関心はあまり高まっていない。最近の日本企業の撤退は、木材輸出が制限されたため。



センターの入り口看板



入り口掲示板、日本語教室ポスターも



説明を受ける団員



山本センター長

## (1-6) 在ハバロフスク日本国総領事館 (ハバロフスク)

〔応対者〕 高橋二雄総領事、岩崎真理子専門調査員

高橋総領事からロシア事情を聞くとともに、日本食を御用意いただいた。総領事館のみならず、市場やマーケットには、日本食が不自由なく手に入り、日本文化が浸透していることが感じられた。主な懇談内容は以下のとおり。

### 【主な懇談内容】

- ・ 中国産農産物の中には、日本では粗悪品になるようなものでも、スーパーで食品として売られているものがある。鳥取県は品質が多少悪くても、価格の安い農産物を輸出したほうが売れる。
- ・ 北方領土についての日本の立場は、あくまでも 4 島返還でそれを貫くべきで、過去に 2 島先行返還などということを政治家が言ったのは間違いである。
- ・ 日本は今後、投資と技術支援で道を探るべきであり、特に農業、エコ産業、エネルギー政策に力を入れ可能性を探るべきである。



公邸看板



夕食会の状況



高橋総領事 (左)



全員で記念撮影

【平成24年10月17日 (水)】

## (2-1) 鳥取県ウラジオストクビジネスサポートセンター (ウラジオストク)

〔応対者〕 受託会社 センコン (ロシア) 有限会社 佐野淳代表取締役社長

現地スタッフ アンナさん (ロシア人)

佐野社長と現地スタッフのアンナさんから、センターにおける業務の概要などの説明を受けた。DBSクルーズフェリーの発着場の目の前に事務所を構えており、観光・経済交流支援・旅行者の個人相談まで、鳥取県の窓口として機能を果たしていた。鳥取県との関係は、

より具体的な話が聞け、今後も拠点として幅広い活動が期待できると考えた。主な説明内容は以下のとおり。

#### 【主な説明内容】

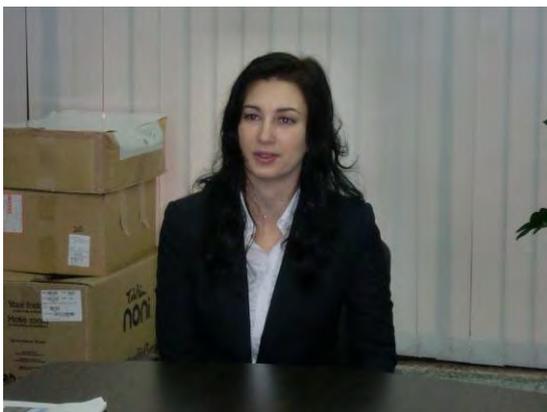
- ・ ビジネス・観光のサポートをしている。
- ・ 今は、建築事業が盛んで、日本の住宅を持ってきて売れないか考えている。ロシア国内での物流コストは日本よりも高い。ウラジオストクからハバロフスクまでの物流コストが高く、売りに結びついていない。
- ・ ロシアから日本へのタイヤの輸出について調査中だが、ロシア国内にはタイヤを集める仕組みがなく、ライセンスも必要であるなどの課題がある。
- ・ DBSを使った鳥取県への割りばしの輸出については、生産地の中国からロシア間の流通コスト高く、1回で終わっている。続けて取り組もうにも見積もりが出てこない。
- ・ ロシアは頻繁に法律が変わるため、それを理由に見積もりを変更することがたびたびあるので、そのリスクを織り込んで商売することが必要である。
- ・ 鳥取県からの農産物輸入については、ウラジオストクにおける鳥取スイカのブランド力は定着しており、毎年完売している。鳥取県側は、品質・ブランド力を落としたい考えのようだが、品質を落としたものでよいので、価格の安いものを持って来れば、もっと売れると思う。ハバロフスクにおいては、昨年からの販売しているが、試食販売等が少なく売れていない。
- ・ DBSを活用した日本への観光については、東海～境港間の安いチケットについては韓国人用にチケットが押さえられており、ロシアでも学生などの希望が多いが購入できない。境港から大阪、京都、広島をめぐるツアーが主流だが、鳥取県の桜を見るツアーなどはいいかもしい。スキーと温泉、カニがパックになっていけばロシア人は喜ぶ。医療、健康、ダイエット、温泉ツアーのプロジェクトがある。
- ・ ロシアでの農業生産は少ないが、中国人がロシアに来て農園を借りて生産している。北海道が試行的に農園経営を始めているが、労働力がしっかりしていないため、こちらに来て指導・管理を徹底することが必要である。
- ・ まんが・アニメについては、ゲゲゲの鬼太郎、コナンはロシア語に翻訳されておらず、テレビ放送もないので知られていない。
- ・ ウラジオストク近郊に日本の自動車工場ができ、トヨタ工場はランドクルーザーを製造するが、部品を持ってきて組み立てるだけで、95%は西側に持って行く。マツダ工場については、10月1日に操業を始めたところ。



センター入り口



説明をうける団員



現地スタッフのアンナさん



停泊中のDBSをバックに記念撮影

## (2-2) 沿海地方議会（ウラジオストク）

〔応対者〕 ゴルチャコフ・ヴィクトル議長、セレブリャコフ・パヴェル議員

ゴンチャルク・ウラジミール議会事務局長、ヴィクトリア事務局職員

ゴルチャコフ議長、藤井団長のあいさつの後、意見交換した。主な内容は以下のとおり。

### 【主な会談内容】

- ・ 現在、来年度予算編成中で、沿海地方各自治体と地方行政府との意見交換の最中で、議会と行政府の目的は予算を増額することである。
- ・ ウラジオストクの極東連邦大学と日本の大学との連携を進めたい。
- ・ 鳥取県からの輸入農産品については、品質は良いが価格が高すぎるのが問題である。
- ・ ウラジオストクの観光振興については、現知事の最重要課題で二つの課題に取り組んでいる。①カジノエリアを建設中で、隣に大きな医療センターも作る予定。②交通チケットの価格がロシア人にとっては高すぎる。競争を強化する必要があり、日本の航空会社を招待したがまだ就航していない。
- ・ 観光客向けに外国語（英語と日本語）の看板を設置することは考えてみたい。APEC開催に合わせて英語の看板を設置したが、間違いが多く、市民から批判が出た。
- ・ 現在、シベリア、極東地域を今後どうやって発展させるかという、大きな議論が行われているが、日本の経験が生きてくると思う。経済成長の場として、日本の自治体の経験を学びたい。
- ・ また、日本の自治体と政府との関係を研究したい。特に金融的、経済的な関係がどのようになっているのか興味深い。



会談の状況



ゴルチャコフ議長（左から2人目）



最後のあいさつをする団員



ゴルチャコフ議長（右から2人目）と全員で記念撮影

### (2-3) 極東連邦大学（ウラジオストク・ルースキー島）

極東地域最大の総合大学であり、極東国立総合大学を母体として設立され、極東国立工科大学、太平洋国立経済大学及びウスリースク国立教育大学が統合された。APEC会場に順次移転中であり、広大な敷地に多くの学舎が建設されていた。現在、外国人留学生約1,500人が在学しているが、ルースキー島内に商業施設、娯楽施設等がないため、学生には不評とのことであった。2019年までに外国人留学生数を7,000人まで増加させる計画であり、将来的には、英語による講義を中心に据えるとしている。日本からの留学については、ロシア語と英語をマスターする必要があり、かなりハードルが高いのではと感じられた。



APEC会場になった極東連邦大学の建物



同 左



APEC会場にもなった会場で記念撮影



学内で説明を受ける団員



学内で説明を受ける団員



構内を視察する団員

#### (2-4) 在ウラジオストク日本国総領事館（ウラジオストク）

〔応対者〕 伊藤伸彰総領事、村山智規副領事（鳥取県からの派遣職員）

伊藤総領事、村山副総領事との会食・懇談を行った。主な内容は以下のとおり。

##### 【主な懇談内容】

- ・ ウラジオストクにおいては、日本の都道府県の中で鳥取の認知度は東京に次いで二番目。かつてはライバルだった新潟、富山に大きく差をつけている。これまでの鳥取県の交流の取り組みの成果である。
- ・ 鳥取県の農産物は、ウラジオストクでブランドを確立した。高級品は現状を維持しながら、一般のロシア人向けに品質は劣っても価格の安いものを持ってきて、販路を拡大するという戦略はあるだろう。
- ・ 「ちょっと無理して買えるいいもの」が望まれており、個人的な感覚で言えば、1200 ルーブル位 (3000 円位)。無理をしても 1400 ルーブル (3500 円) から 2000 ルーブル (5000 円) 位までなので、鳥取のスイカの 2500 ルーブル (7000 円) は高い。
- ・ どのようなものが売れるのかについては、市場調査を行って絞り込んでいく必要がある。
- ・ APEC の影響で 5~6 年は伸びると思う。この地域は石油、ガス、武器が外貨獲得の主なものだが、石油高騰で多くの外貨を稼いだ時期に、設備更新、設備投資が行われていないので、エネルギー関係の設備は効率が悪いものばかり。
- ・ これまでは、欧州に石油、天然ガスを売り続けてきたが、シェールガスの出現で輸出形態が変わるのではないかと。東に出ないといけない状況になり、韓国、中国、日本などアジア諸国に売らないといけない。
- ・ サハリン、ハバロフスク、ウラジオストクを結ぶパイプラインは完成したので、液化天然ガスをつくる工場を作ろうとしている。ナホトカに大きな石油ターミナルも作った。
- ・ ロシアとしては、ウラジオストクをアジアへの燃料を売り込む出口として発展させる必要がある。それができないとロシアの経済は持たなくなる。なので、ロシアはウラジオストクを発展させる必要がある。
- ・ 日本のエネルギーのロシア依存度は天然ガス 9%、石油 12% で、中東からシフトしつつある。



あいさつをする藤井団長



同 左



伊藤総領事（中央）



伊藤総領事（左から3人目）と全員で記念撮影

**【平成24年10月18日（木）】**

**（3-1）アルセーニエフ博物館（ウラジオストク）**

1884年に設立され、現在の建物は旧横浜政金銀行（現在の三菱東京UFJ銀行）の物を利用している。自然、歴史、美術が展示されており、日本人移入の歴史がとてもわかりやすく展示されていた。ロシア人の極東における歴史とともに、この地を理解し、日本との関係を知る上で、是非とも訪問を勧めたい場所であった。



館内を視察する団員



全員で記念撮影（右端はロシア人観光ガイド）



館長（左から3人目）とあいさつする団員



訪口中の鳥取県博物館長らと会遇

### （3-2）セイジョーファースト（ウラジオストク）

〔応対者〕 コステンコ社長、アレキサンダー営業部長、通訳（女性）

日本製品を輸入し、ロシア国内に販売している商社であり、ビジネスの概要について説明を受けた。ロシアで大きな商取引をしているにもかかわらず、鳥取県からは一度も売り込みがなく、鳥取県ウラジオストクビジネスサポートセンターとも関係がほとんどない点が気になった。例えば、カレーのルーやお菓子など、DBSを使って輸出できる商品を、県内でさらに掘り起こすことができるのではないかと感じた。さらに荷を確保するとともに、経済連携を強めるため、中国5県で輸出商品を探してはどうかと思った。主な説明内容は以下のとおり。

#### 【主な説明内容】

- ・ 日本製品について、極東部の人々は身近に感じており、品質が非常に良いというイメージを持っている。自動車であれば、トヨタ、日産は非常によく知られている。
- ・ 日本の化粧品や日用雑貨等を輸入販売しており、極東で販売網を持っている。モスクワ、サンクトペテルブルク等の大都市にはある程度商品を出しているが、日本製品は西のほうではまだ知られていないので拡大の余地があると考えており、販売網を拡大する計画を持っている。
- ・ 日本製品は価格がやや高いので、所得の低いロシア人に買ってもらうのは難しい面があるが、価格の安いものを輸入するようにしている。取り扱う輸入品のメーカーは、熊野油脂、マルフク、ペリカン、アイリスオーヤマ、ネピアなどで、子供用の紙おむつは価格が安く、販売しやすい。今後、伊藤園、キーコーヒー等の商品の販売計画を持っている。食品関係で日本の新しいビジネスパートナーを探したい。
- ・ ロシアはWTOに加盟したので、今後、貿易はしやすくなるだろう。ロシアの商品も日本に輸出したいと考えている。
- ・ 輸入手段については、時間がかからず便利なので、ほとんどの商品はDBSを使っている。
- ・ 鳥取県ロシアビジネスサポートセンターとの接触はない。
- ・ 税関係については、化粧品の場合、関税が15%、付加価値税が18%で合計33%かかり、他の地域に移出する輸送コストもかかるので、価格は50%程度高くなる。



セイジョーファーイースト社のロゴ



あいさつする藤井団長



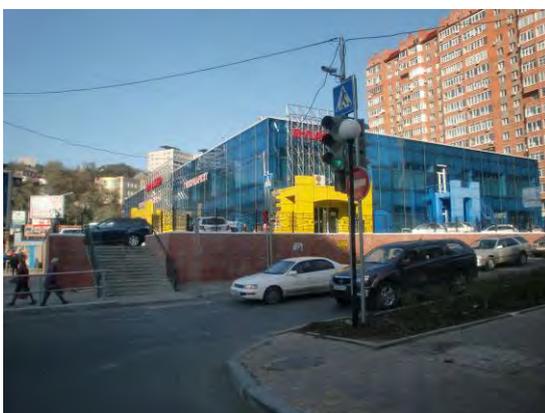
コステンコ社長



取り扱っている日本製品

### (3-3) VLマート (ウラジオストク)

平屋建ての一般的なスーパーマーケットであり、ロシア庶民の生活の場を窺い知ることができた。鳥取県産の20世紀梨のポスターが掲示されているコーナーがあり、傷付いた梨が多く売れ残っていた。1kg当たり798ルーブル(約2000円)ではあまりにも高く、売れないことを実感した。店内の品数、品種は豊富であり、多くの日本製品が見受けられた。中には、島根県産や秋田県産の米等も売られていたが、鳥取県産が入っていないのが気になった。醤油やソーメン、そばも売られており、日本人が暮らすのに不自由はないと感じた。



VLマートの外観



鳥取県産のコーナー



鳥取県産コーナーに陳列されていた梨



日本米「あきたこまち」等

**【平成24年10月19日（金）】**

**（4-1）日本人抑留者慰霊碑献花（ウラジオストク）**

ウラジオストク空港の近郊にある慰霊碑であり、藤井団長をはじめ、全員で献花を行った。APECの際、野田首相も献花されているが、ドライフラワー状になっており、遠い地で眠る人々の思いこ心を馳せた。



日本人抑留者慰霊碑



団員全員で献花